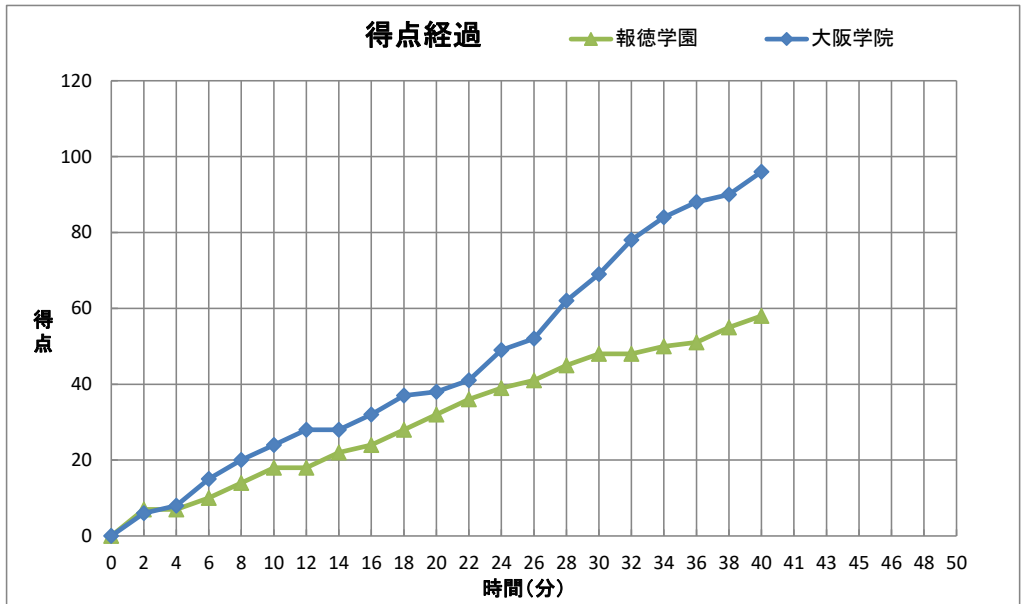




令和4年度
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子		2月18日		18:30 開始													
準々決勝		滋賀ダイハツアリーナ		D													
報徳学園	58	<table border="1"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>24</td></tr> <tr><td>14</td><td>2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>3rd</td><td>30</td></tr> <tr><td>10</td><td>4th</td><td>26</td></tr> </table>	18	1st	24	14	2nd	15	16	3rd	30	10	4th	26	95	◎ 大阪学院	
18	1st	24															
14	2nd	15															
16	3rd	30															
10	4th	26															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
2	宮菌 遼	0	0	0	0	0	* 4	樋田 要太	7	1	2	0	1				
3	杭田 悠吾	0	0	0	0	0	5	大村 虎太郎	-	-	-	-	-				
4	富本 真脩	2	0	1	0	1	* 6	太田 凜	37	6	8	3	1				
5	江岡 大登	0	0	0	0	0	7	西村 隆成	2	0	1	0	0				
* 7	森本 虎志	11	1	3	2	1	* 8	高口 絢太	6	0	3	0	1				
* 8	森 脩平	3	1	0	0	1	9	末継 惇也	0	0	0	0	0				
* 10	大澤 一輝	5	0	2	1	4	10	中島 暖登	5	0	1	3	3				
* 13	星原 甲治	7	0	3	1	1	* 11	池田 頼鷹	8	0	4	0	1				
15	久保 晴熙	2	0	1	0	0	12	熊谷 蓮太郎	2	0	1	0	0				
21	福本 有都	10	1	3	1	0	13	松岡 弘樹	0	0	0	0	0				
45	上田 悠真	0	0	0	0	0	14	三田 麟太郎	0	0	0	0	0				
71	北村 優光	3	1	0	0	0	15	水島 遊瑛	3	1	0	0	1				
74	美川 祐亮	0	0	0	0	1	16	泉 勇雅	4	0	2	0	3				
77	岩永 春太郎	3	0	1	1	0	* 17	舟谷 陽人	21	3	6	0	2				
* 97	井藤 匠哉	12	0	6	0	1	18	宇都宮 隆汰	-	-	-	-	-				
コーチ	田中 敬					0	コーチ	高橋 渉					0				
Aコーチ	更谷 知則						Aコーチ	梁川 禎浩									
合計		58	4	20	6	10	合計		95	11	28	6	13				
主審: 大倉 哲也																	
副審: 深野木 慧																	
副審: 雑賀 弥一郎																	



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	18:17	:	25:42	28:40	:	:	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕

報徳学園（兵庫）と大阪学院（大阪）の対戦となった準々決勝。

第1Q、報徳学園#7#8#10#13#97、大阪学院#4#6#8#11#17でスタート。序盤はお互いドライブを中心に交互に得点していく。中盤からは大阪学院のオールコートゾーンと#6の3Pやドライブでじわじわと点差を開ける。しかし、報徳学園も要所で速攻や#97のドライブで得点を決め、完全には流れを渡さない。最後は報徳学園18-24大阪学院で第1Q終了。

第2Q、報徳学園もDEFをオールコートゾーンに変えた。両チームのハードなDEFとルーズボールもあってかお互いに得点が伸びない。終盤には大阪学院#6が3Pを決め、流れを掴んだかと思われたが、報徳学園も#13のブッシュなど得点を決め譲らない。残り2分を切ったところで報徳学園がタイムアウトを取りそこから得点を重ね前半終了。報徳学園32-39大阪学院。

第3Q、大阪学院は#4や#17の3Pを中心に様々な選手が得点し、報徳学園がたまたまタイムアウト。その後は大阪学院が得点したと思えば報徳学園#97が連続得点し、引き続き拮抗した展開が続くように思われた。しかし、終盤にかけて大阪学院#17のドリブルジャンパーや連続3Pで一気に点差を放した。報徳学園もタイムアウトを取り流れを掴もうとするが、譲らない大阪学院。報徳学園48-69大阪学院で第3Q終了。

第4Q、大阪学院は第3Qの勢いそのままに、#6の3Pや#8のリバウンド、全員での速攻で得点を重ねる。報徳学園も負けじとドライブインなどから得点を狙うが、大阪学院のDEFの強度は最後まで落ちず、なかなか崩すことができない。大阪学院が最後まで攻撃と守備の手を緩めず試合終了。報徳学園58-95大阪学院で大阪学院の勝利。両チームともがルーズボールとDEFを最後まで頑張る良いゲームであった。

戦評: 大澤 郁

記録:

河瀬高校